

講演③

PFAS(ピーファス)の“ごみ”に立ち向かう

松神 秀徳

講演概要

有機フッ素化合物(PFAS)は、熱や薬品に強く、水や油をはじくなどの性質があるため、工業製品から日用品まで幅広く使われてきました。ところが、PFASの中には環境中で分解されにくく、健康への影響が心配されるものがあります。特にPFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸)やPFOA(ペルフルオロオクタン酸)については注意が必要とされ、これらを含む廃棄物は、環境に広げないように適切に回収し、処理することが求められています。本講演では、PFOS・PFOAを含む廃棄物について、「処理・分解」「モニタリング(測って状況を把握する)」「物質代替(別の材料に置き換える)」の3つの視点から取り組みを紹介し、私たちにできることを一緒に考えます。

講演者略歴



高校生の頃の自分への、
環境問題を自分ごと化するためのアドバイス

身の回りの便利な製品に使われている化学物質について考えてみよう。

松神 秀徳 (まつかみ ひでのり)

資源循環領域 試験評価・適正管理研究室/主幹研究員

北海道大学大学院地球環境科学研究科の修士課程を修了後、化学分析に係る民間企業に10年程度勤務。2012年より国立環境研究所に勤務。その間、東京大学大学院新領域創成科学研究科博士後期課程(社会人等特別選抜)に入学し、2016年に博士号(環境学)を取得。環境汚染物質について、モニタリングや分析技術の開発、現場での実測調査を通じて、「どこに何がどれくらいあるか」といった実態把握に取り組んでいる。専門は環境分析化学。特に、さまざまな先端計測機器を用いた環境分析を強みとしている。